



人工股関節手術は、傷んだ股関節を特殊な金属やセラミックスでできたインプラントに置き換える手術です。主に、変形性股関節症や大腿骨頭壊死などの疾患に適応があり、年

徳島大学病院クリニカルアナトミー教育・研究センター

後東知宏・特任准教授



支援ロボット用いた人工股関節手術

々その手術件数は増加傾向にあります。人工股関節手術を行う上で重要なことは、個々の患者さんに適した人工股関節の正確な設置になります。人工股関節の挿入角度や位置が数度、数ミリずれるだけで脱臼(関節が外れてしまうこと)

や人工関節の耐久性に問題が生じる可能性があります。当院では、より精度の高い安全な治療を提供するべく、最新技術である手術支援ロボットを用いた低侵襲人工股関節手術に取り組んでおります。

前CT画像を用いて詳細な三次元手術計画を行い、実際の手術において、ロボット技術を利用して理想的なインプラント設置を高い精度で実現することが出来ます。ロボットの利点は、アームが目標設置位置、角度に制御されること

いますが、手術支援ロボットは、手術支援ロボットの性能を最大限活用することでも、安全かつ正確に人工関節を設置することが可能となっています。最小侵襲で理想的な手術ができれば、術後の痛み軽減、早期社会復帰が

援ロボットは、近年アメリカを中心に急速に普及してきており、これまで多くの良好な実績が報告されています。日本では2019年に保険が適用され、徳島大学では21年4月から、全国の国立大学では初めて臨床導入しました。術

で数度、数ミリ単位でインプラント設置を調整することが可能となり、不必要な骨切除や軟部組織損傷を防ぐことが出来ます。我々は、以前から小さな傷で筋肉をほとんど切らない最小侵襲手術を人工股関節手術に取り入れて

可能となり、一部の例外を除き、手術を受けたことで制限される動作はほとんど無くなります。当院ではこのような最新技術を導入することで、より患者満足度の高い治療を提供できるように取り組んでいます。